

ニンニクアブラ

Y S K

「ニンニク入れますか？」

主は尋ねた。

男は膝をつき、頭を垂れながら答えた。

「ニンニクアブラ」

すると刹那、琥珀色の海は真つ二つに割れ、道ができた。

しかしそこに油の塊と大蒜の塊が押し寄せ、蠢いた。

民は絶望し、帰還はもう叶わないのかと悲嘆に暮れた。

「悲しむでない」

主は何かを諭すように、優しく男と民に話しかけた。  
「ヨハネの預言を思い出しなさい」

男は刹那、かの神聖なる預言を思い出した。

「地の力によりて神の子らは救われる」

男は更なる祝詞（別訳版ではそれをコールという）を  
声高に、琥珀色と白い塊に向かい叫んだ。  
「ヤサイ」

すると天より光が何筋か差し、雲の間から野菜が降り注  
いだ。

降り注ぐ野菜は優しく油の上に降り注ぎ、やがてそれは  
民のための道となった。

「こ、これでようやく故郷に帰れる！」

民は歓喜に舞った。

しかし、強欲なサタンの誘惑に負けた何者かが禁断の言  
葉を述べる。

「マシマシ」

その瞬間、天から異常な量の野菜が降り注ぎ、海の中に  
積もり、天高く、それは高く伸びたかと思うと、自身に  
近づかんとする強欲さに激怒した神は、野菜の山を突き  
崩した。

民は崩壊する野菜の海に溺れ、やがてみな息絶えた。

後にこの出来事は「バベルの塔」として多くの文学、芸術作品、映像作品、フィクションに引用されることとなる。

「えー、以上が【マシマシ】を希望されるお客様へのご注意となりまして、ご理解いただけましたら幸いです」

「あつ、それじゃ無しで大丈夫です」

「あのーお客さん、【無し】は【マシ】と紛らわしいのでコールをそもそもしないという返答でお願いしますね」

店員は再度声がけをした。

「ニンニク入れますか？」

出三田記 20章 2節 17節